4. 授業要項（令和4年度分）

３　年　生

作 業 療 法 学 科

授業科目名	リハビリテーション医学	（フリガナ） 担当教官名	馬庭　壯吉・酒井　康生・蓼沼　　拓 高橋　幸男・山本　佳昭
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	必修･選択の別	必修

科目概要	リハビリテーションが治療的手段として重要である運動疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方について学習する。
到達目標	障害の評価及び治療方針を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	脳卒中のリハビリテーション 　脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の治療および高次脳機能のリハビリテーション	山本佳昭
2-3	神経筋疾患のリハビリテーション 　パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症、多発性硬化症等の変性疾患とリハビリテーション 　内部疾患のリハビリテーション	酒井康生
4	整形外科疾患のリハビリテーション・関節リウマチのリハビリテーション	馬庭壯吉
5	脊髄損傷、切断のリハビリテーション	蓼沼　拓
6	小児のリハビリテーション	蓼沼　拓
7	精神疾患および認知症のリハビリテーション	高橋幸男
8	がんのリハビリテーション 　乳がん、大腸がん、胃がん、肺がんとリハビリテーション、がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア	蓼沼　拓

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験 90%、出席状況 10%
教科書	目でみるリハビリテーション医学（第 2 版）・上田　敏・東京大学出版会 リハビリテーション医学テキスト（改訂第 4 版）・三上真弘、出江紳一（編）　南江堂
参考書	標準整形外科学（第 14 版）・中村利孝、松野丈夫　総編集・医学書院 現代リハビリテーション医学（改訂第 4 版）・千野直一　編集・金原出版
実務経験に関する記述	整形外科専門医およびリハビリテーション科専門医、老年精神科専門医、義肢装具適合判定医等の認定を持ち、大学病院等で臨床診療に携る医師が、日々の診療で経験した症例や体験談、模擬事例を提示しながら実践的な教育を行う。

授業科目名	チーム医療論演習	（フリガナ） 担当教官名	ヤマ モト マリコ 山 本 真理子
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	少子高齢化が進み、医療機能も地域全体で治し、支える「地域完結型」の体制構築への変化を迎えている中で、所属施設内外の専門職種と連携・協働する力は医療専門職として必須である。本科目ではこれまでの多職種連携科目での学びを復習すると共に、学外者との地域の課題を分析、解決のための策を見つけるワークを通じて、他職種間でのコミュニケーション技能を養う。
到達目標	・他職種間におけるコミュニケーションの基本理論を理解し説明できる。 ・他職種の思いを引き出すことができる。 ・他職種に意思を伝え、課題を分析し、解決案作成することができる。

回数	授業内容	担当
1	多職種連携について、コミュニケーション論、チーム医療論、医療コミュニケーション演習での学びについて振り返り、チーム医療論演習の目的、概要について説明する	山本真理子
2	事前ワーク；SDGs とは何か調べ、テーマに合った取り組み例を挙げてみる	山本真理子
3	事前ワーク；奥出雲町の現状について調べてみる	山本真理子
4	事前ワーク；提示されてたテーマについて、奥出雲町内での課題を考える	山本真理子
5	事前ワーク；考えた課題に対する改善策について PT・OT の視点で考えてみる	山本真理子
6	各テーマについて、奥出雲町内での課題を考える。	山本真理子
7	学外者とワーク・課題立案	山本真理子
8	学外者とワーク・課題立案	山本真理子
9	考えた課題に対する改善策について PT・OT の視点で考えてみる	山本真理子
10	学外者とワーク・解決策立案	山本真理子
11	学外者とワーク・解決策立案	山本真理子
12	発表資料作成	山本真理子
13	発表	山本真理子
14	発表	山本真理子
15	まとめ：学外者との改題・解決案作成のワークを通し、他職種連携の視点で振り返り	山本真理子

アクティブラーニング	SDGs をテーマに地域についてグループワークを行い、問題点から、課題解決策を作成し、発表する。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価　100％
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介
実務経験に関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験を持つ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。

授業科目名	装具学	（フリガナ） 担当教官名	中　村　哲　郎
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	①　装具全体を体系的に理解する。 ②　対象者への装具の適合についての技術知識を得る。
到達目標	①　装具の果たす役割を理解する。 ②　装具の適切な適合を理解する。

回数	授業内容	担当
1 2	装具学　総論	中村哲郎
3 4	上肢装具	中村哲郎
5 6 7	体幹装具	中村哲郎
8 9 10 11	下肢装具	中村哲郎
12 13 14	靴型装具	中村哲郎
15	その他	中村哲郎

アクティブラーニング	
評価基準	期末テスト、レポート、出席状況、授業態度による。
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト　装具学　第2版　総編集　石川朗　中山書店（2020）
参考書	装具学　第4版　飛松好子他著　医歯薬出版
実務経験に関する記述	

授業科目名	研究方法論Ⅲ	（フリガナ） 担当教官名	カナヅル　ケイコ　ヤマモトマリコ　ナカダ　ナオ 金弦　敬子・山本真理子・仲田　奈生 アオキリュウタロウ　ツダコウタロウ 青木竜太朗・津田宏太郎
開講学期	通年		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	必修･選択の別	必修

科目概要	臨床現場において作業療法の取り組みについて振り返ることや新たな知見を探究していくことは重要である。この授業では､論理的に物事を捉え､相手に伝わるプレゼンテーション能力を養うことを目的としている。また、研究方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ研究の基礎知識や方法に加え、執筆・発表規程や研究を行う際の説明と同意といった倫理に配慮しながら研究を進めていくことを学ぶ。
到達目標	1. 研究方法論Ⅱで作成した研究計画書を元に倫理に配慮しながらデータ収集し、研究論文ができる。 2. 研究論文を他者に伝わりやすいように工夫し発表できる。 3. テーマ決定から発表まで、授業や授業外での研究計画を管理し研究を進めていくことができる。

回数	授業内容	担当
1	【オリエンテーション】授業の目的・到達目標・授業の概要・指導担当教員決め・学修の準備について担当教員が説明する。 【講義】スケジュールなど研究に関する総論を担当教員が説明する。	仲田奈生
2	【演習】研究計画書をもとに、研究スケジュールを作成する。	全専任教員
3~30	【演習】 指導教員の指導のもと、調査あるいは実験の実施ができる。 適切な統計手法を用いてデータを解析できる。 文献を用いて結果の解釈や考察ができる。 倫理的かつ科学的根拠に基づいた論文を執筆できる。 研究論文発表に向けた準備を行う。担当教員は研究論文発表に向け指導・助言を行う。	全専任教員

アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は研究スケジュールを立て、管理する。必要に応じて、個人間で研究に関するディスカッションを行う。 ・担当教員は個人に対し、指導・助言を行いながら研究論文に関する課題解決を援助する。
評価基準	研究論文（100%） ※評価基準の総得点が60点に到達しない場合の再試験は原則行わないため、計画的に研究論文を作成していくこと。
教科書	
参考書	鎌倉矩子他著：作業療法士のための研究法入門　三輪書店
実務経験に関する記述	国内外の学会発表を行っている教員、修士課程を修了している教員により指導を行いながら、実践的な教育を行う。

授業科目名	作業療法マネジメント論Ⅰ	（フリガナ） 担当教官名	森脇繫登（モリワキシゲト）・小林央（コバヤシヒサシ） 篠崎亜由美（シノザキアユミ）・山本真理子（ヤマモトマリコ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	必修･選択の別	必修

科目概要	本講義では、より効率的な作業療法を提供するために必要な組織の管理や運営といったマネジメントについての知識を深める。
到達目標	・マネジメント、組織、リーダーについて説明できる。 ・部門を管理する意義・要因を説明できる。 ・身近な組織について、人・もの・時間の視点で課題を抽出し、課題解決に向けた取組を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	マネジメントの概要について	山本
2	組織論について	篠崎
3	組織論についての演習	篠崎・森脇 山本
4	組織におけるリーダー（種類、役割）について	小林
5	リーダーについての演習	小林・山本
6	部門を管理する；人とモノを管理することの意義について	森脇
7	部門を管理する；売り上げと時間を管理することの意義について	森脇
8	部門管理についての演習	森脇・山本

アクティブラーニング	組織、リーダー、部門管理についてグループワーク（PBL）を行い、その結果の発表を行う。
評価基準	定期試験70%・授業態度20%・出席日数10%
教科書	PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学　第1版　齋藤昭彦，下田信明／編　羊土社
参考書	リハビリテーション管理・運営　実践ガイドブック　メジカルビュー社 医療機関、介護施設のリハビリ部門管理者のための実践テキスト　ロギカ書房
実務経験に関する記述	

授業科目名	作業療法マネジメント論Ⅱ	（フリガナ） 担当教官名	森脇繋登（モリワキシゲト）・小林央（コバヤシヒサシ） 篠崎亜由美（シノザキアユミ）・山本真理子（ヤマモトマリコ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	必修･選択の別	必修

科目概要	本講義では、より効率的な作業療法を提供するために必要な組織の管理や運営といったマネジメントについて、各領域の実践例について学び、病院組織の仕組みとリーダーの役割を学ぶ。
到達目標	・人を育てる必要性について説明できる。 ・作業療法士が活躍する各領域での組織運営について理解する。 ・理想とする組織像を提案し、自身が貢献できる取組を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	人材育成について；マネージャーとリーダー	森脇
2	人材育成について；コーチング・ティーチング、メンタリング	山本
3	急性期における組織運営	森脇
4	回復期における組織運営	小林
5	精神領域における組織運営	篠崎
6	就労支援における組織運営	小山
7	生活期における組織運営	原田
8	組織運営についての演習	山本

アクティブラーニング	組織運営についてグループワーク（PBL）を行い、その結果の発表を行う。
評価基準	定期試験70%・授業態度20%・出席日数10%
教科書	PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学　第1版　齋藤昭彦，下田信明／編　羊土社
参考書	リハビリテーション管理・運営　実践ガイドブック　メジカルビュー社 医療機関、介護施設のリハビリ部門管理者のための実践テキスト　ロギカ書房
実務経験に関する記述	

授業科目名	臨床作業療法評価学（演習）	（フリガナ） 担当教官名	作業療法学科全教員		
開講学期	前期				
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修
科目概要	臨床実習に向けた客観的臨床能力評価（OSCE）を行う。学生が自己の臨床能力（精神・運動領域、認知領域、情意領域）の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床実習に必要な能力を向上することを目的とする。 臨床技能に関する講義・演習の後に模擬症例を用いてコミュニケーション、検査・測定技術、分析･解釈を評価者が試験にて評価する。試験後に学生は評価者からフィードバックを受ける。				
到達目標	・各評価項目における目的や意義を述べることができる。 ・各評価項目に求められる技術を模擬患者を対象に実施することができる。 ・一連のオリエンテーション、評価のプロセスで医療人として相応しい態度、関わりを示すことができる。 ・臨床実習までの自身の課題を明確にし、改善に向けて努力することができる。				

回数	授業内容	担当
1	OSCE オリエンテーション・スケジュール提示	全教員
2~7	【演習・講義】　身体障害（片麻痺）・高次脳障害（半側空間無視・注意障害）	全教員
8~11	【演習・講義】　精神障害（面接）	全教員
12~14	【演習・講義】　整形疾患（大腿骨頸部骨折）	全教員
15	【演習・講義】　各疾患に対する試験	全教員

アクティブラーニング	アクティブラーニングの内、「ピアインストラクション」の手法を用い、実技内容についてペアの学生同士で教えあうことで思考プロセスに他者視点を取り込んで、より客観性を持った形で自身の問題を明確に意識しやすくする学習方略をとる。
評価基準	実技試験　90%　（各疾患を 30%とする） 出席日数・授業態度　10%（実技試験の点数に加算）
教科書	特になし　　各演習にて適宜提示する
参考書	・才藤栄一監修「PT・OT のための臨床技能と OSCE ～コミュニケーションと介助～」金原出版　2015 年 ・才藤栄一監修「PT･OT のための臨床技能と OSCE ～機能障害･能力低下への介入～」金原出版　2015 年
実務経験に関する記述	身体障害領域･精神障害領域で 10 年～ 20 年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、身体障害領域、精神障害領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。

授業科目名	作業療法治療学I−2(整形系)	（フリガナ） 担当教官名	ヤマモト マリコ アオキ リュウタロウ 山本 真理子・青木 竜太朗
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	必修･選択の別	必修

科目概要	整形外科系身体障害領域における作業療法について講義と演習を交えて、代表的な整形外科系疾患の発生機序や病態などの理解を深め、それらに対する作業療法プログラムを学習する。専門分野や関連諸学の学識を用いて、作業療法上の課題を探求・設定し、リスク管理をふまえた上で、多面的に作業療法の評価から作業療法を実践するための知識・技術・態度について学ぶ。
到達目標	・整形外科系身体障害領域の作業療法の流れを説明できる。 ・各疾患の特徴（症状と障害）を説明する。 ・各疾患に必要な評価項目を選択できる。 ・各疾患のリスクや必要な援助方法を説明できる。 ・模擬症例を通じて情報収集・評価・目標立案・治療アプローチ立案まで行える。 ・症状より疾患特異性評価を列挙、実施ができる。 ・画像より解剖の知識を用いて部位の説明、障害の判断ができる。

回数	授業内容	担当
1	脊髄損傷の症状と障害	山本・青木
2~3	脊髄損傷の症状と障害；グループワーク	山本・青木
4	脊髄損傷の評価；画像、特異性評価	山本・青木
5~6	脊髄損傷の評価；ICF グループワーク	山本・青木
7~8	脊髄損傷の治療と援助；ADL	山本・青木
9~10	環境調整演習；自助具	大塚
11~12	脊髄損傷の治療と援助；症例検討	山本・青木
13~14	末梢神経損傷の病態、合併症、リスク管理、医学的治療方針、作業療法について	山本・青木
15~16	リウマチの病態、合併症、リスク管理、医学的治療方針、作業療法について	山本・青木
17~18	リウマチ患者に対する作業療法アプローチについて調査し発表する	山本・青木
19	腱損傷の病態、合併症、リスク管理、医学的治療方針、作業療法について	山本・青木
20~22	切断の病態、合併症、リスク管理、医学的治療方針、作業療法について	山本・青木
23~24	熱傷の病態、合併症、リスク管理、医学的治療方針、作業療法について	山本・青木
25~27	骨折の病態、合併症、リスク管理、医学的治療方針、作業療法について	山本・青木
28~30	骨折の模擬事例に対する評価立案・ICF 分類・治療立案をグループでディスカッションをしまとめ、発表する	山本・青木

アクティブラーニング	各疾患の模擬症例を用いて、グループでディスカッションをし、発表や生活上の補助具の作成を行う。
評価基準	期末試験 50%、グループディスカッション時の発言量、協調性 20%、発表、レポート 20%、出席日数 10%
教科書	・小林隆司（編）：PT・OT ビジュアルテキスト　身体障害作業療法学 1　骨関節・神経疾患編 第 1 版、羊土社 ・柴喜崇（編）：PT・OT ビジュアルテキスト　ADL　第 2 版、羊土社
参考書	・井樋栄二（著）：『標準整形外科学　第 14 版』（医学書院） ・菅原洋子他（編集）；『作業療法学全書 4　身体障害　改訂第 3 版』（協同医書）
実務経験に関する記述	総合病院において、10 年間専任作業療法士として従事し、ポスト・サブアキュート、回復期病棟における整形外科疾患の治療に関わった教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学I−3(内科系)	（フリガナ） 担当教官名	青　木　竜太朗（アオ キ リュウタロウ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	必修･選択の別	必修

科目概要	作業療法における各種内部障害について、その障害を理解し対象者を作業的存在として捉えた援助方法を学ぶ。その際、評価、治療理論、リスク管理等について理解を深め、基礎的な作業療法を実施できることを目標とする。
到達目標	1．身体障害分野の作業療法の流れを説明できる。 2．各疾患の特徴（症状と障害）を説明できる。 3．各疾患に必要な評価項目を選択できる。 4．各疾患に必要な援助方法を説明できる。 5．模擬症例を通じて作業療法を実践するために評価･目標立案･治療アプローチの検討が行える。

回数	授業内容	担当
1	心臓の解剖・生理	青木竜太朗
2	確認テスト（循環器系の解剖・生理）	青木竜太朗
3	心臓リハビリテーションの理解	青木竜太朗
4	演習：「事例検討～心疾患患者における作業療法」	青木竜太朗
5	演習：「事例検討～心疾患患者における作業療法」	青木竜太朗
6	発表、フィードバック	青木竜太朗
7	心電図の理解と病態	青木竜太朗
8	演習：「心電図の読解」	青木竜太朗
9	呼吸器の解剖・生理・運動	青木竜太朗
10	確認テスト（呼吸器の解剖・生理・運動）	青木竜太朗
11	呼吸器リハビリテーションの理解・吸引を含む	青木竜太朗
12	呼吸器疾患患者への作業療法	青木竜太朗
13	演習：「事例検討～呼吸器疾患患者における作業療法～」	青木竜太朗
14	演習：「事例検討～呼吸器疾患患者における作業療法～」	青木竜太朗
15	発表・フィードバック	青木竜太朗
16	実習：「呼吸介助」	青木竜太朗
17	栄養障害とリハビリテーション	青木竜太朗
18	嚥下障害とリハビリテーション	青木竜太朗
19	食形態へのアプローチと体験	青木竜太朗
20	糖尿病の理解とリハビリテーション	青木竜太朗
21	糖尿病患者への作業療法	青木竜太朗
22	演習：「事例検討～糖尿病患者における作業療法～」	青木竜太朗
23	演習：「事例検討～糖尿病患者における作業療法～」	青木竜太朗
24	発表・フィードバック	青木竜太朗
25	がんリハビリテーション　概論・苦痛と対応	青木竜太朗
26	がんリハビリテーション　リスク管理とリハビリテーションの実際	青木竜太朗
27	演習：「事例検討～がん患者における作業療法～」	青木竜太朗
28	演習：「事例検討～がん患者における作業療法～」	青木竜太朗
29	発表・フィードバック	青木竜太朗
30	血液データの見方と解釈	青木竜太朗

アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。
評価基準	期末試験（60%）、PBL チュートリアル（20%）、確認テスト（20%）
教科書	・斉藤佑樹（著）：作業で語る事例報告　作業療法レジメの書き方・考え方、医学書院 ・小林隆司（編）：身体障害作業療法学２　内部疾患編　第１版、羊土社 ・柴喜崇（編）：ADL　第２版、羊土社
参考書	1．菅原洋子他編集；作業療法学全書４　身体障害　改訂第３版、協同医書 2．斉藤佑樹著；作業で語る事例報告　作業療法レジメの書き方・考え方、医学書院
実務経験に関する記述	リハビリテーション病院において、７年間専任作業療法士として従事し、回復期病棟、デイケア、老人保健施設、訪問リハビリテーションにおける内科系作業療法を経験した教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、応用･代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学Ⅱ－2(精神)	（フリガナ） 担当教官名	ツ ダ コウタロウ 津 田 宏太郎
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	作業療法における精神障害領域の各種疾患について、障害特性を理解し、疾患を持たれた対象者に対し適切な評価、治療計画を立てれるような講義を実施する。 また、国家試験や臨床実習を想定した学習も行う。
到達目標	各種精神疾患に対して適切なアプローチを立案し、実施できるようになる。

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション	津田宏太郎
2	気分障害に対する作業療法	津田宏太郎
3	気分障害に対する作業療法	津田宏太郎
4	神経症に対する作業療法	津田宏太郎
5	神経症に対する作業療法	津田宏太郎
6	依存症候群に対する作業療法	津田宏太郎
7	依存症候群に対する作業療法	津田宏太郎
8	人格障害に対する作業療法	津田宏太郎
9	人格障害に対する作業療法	津田宏太郎
10	精神遅滞、てんかんに対する作業療法	津田宏太郎
11	国家試験から見る各種精神疾患	津田宏太郎
12	国家試験から見る各種精神疾患	津田宏太郎
13	国家試験から見る各種精神疾患	津田宏太郎
14	心理教育について	津田宏太郎
15	疾病管理について	津田宏太郎

アクティブラーニング	心理教育や疾病管理などグループワークを通して体験し、学習する。
評価基準	期末試験 90% 出席日数・授業態度 10%
教科書	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版　堀田英樹編集　中央法規出版
参考書	冨岡詔子､小林正義編:作業療法全書（改訂第3版）第5巻「作業治療学2　精神障害」、日本作業療法士会、協同医書出版
実務経験に関する記述	精神科病院において12年間従事し、臨床経験を積んだ教員が、精神疾患における治療法を具体的な事例を提示し、教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学Ⅱ－3(精神)	（フリガナ） 担当教官名	アオ ヤマ ヒロシ シノ ザキ アユミ 青 山 宏 ・ 篠 崎 亜由美
開講学期	後期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	作業療法の精神科領域における歴史や変遷を学び､作業療法士の役割を理解する｡そして、対象者の疾患・障害特性や回復過程を踏まえ、実際の臨床場面での作業療法治療・援助内容を理解する。また、医療施設や医療施設以外の他領域の実践に触れ、対象者にとってのQOLの構築、地域生活支援の必要性について理解する。
到達目標	・精神科領域における作業療法の歴史と変遷を踏まえ精神医療の現状を理解できる。 ・臨床場面の作業療法を理解できる。 ・回復過程に応じた治療プログラムを実践できる力を獲得する。

回数	授業内容	担当
1	精神科作業療法の現在（歴史と変遷を踏まえ）	青山　宏
2	臨床において精神科作業療法が目指すもの（社会と生活の中で）	青山　宏
3	精神科作業療法における事例検討とは	青山　宏
4	模擬事例検討の実施（グループワーク）	青山　宏
5	事例検討を通した治療関係や治療環境への視点	青山　宏
6	精神科作業療法における精神性と身体性	青山　宏
7	領域別作業療法　オリエンテーション	篠崎亜由美
8	急性期作業療法の実際	篠崎亜由美
9	回復期前期作業療法の実際（模擬的対象者に対するグループワーク）	篠崎亜由美
10	回復期後期作業療法の実際（模擬的対象者に対するグループワーク）	篠崎亜由美
11	維持期（社会内維持期）	篠崎亜由美
12	維持期（施設内維持期）	篠崎亜由美
13	地域生活支援（精神科デイケア、訪問リハビリテーション）	篠崎亜由美
14	臨床作業療法士の思い	篠崎亜由美
15	総括	篠崎亜由美

アクティブラーニング	授業では模擬対象者に対するグループワークを実施する．学生は対象者に対する作業療法治療を立案し，治療の模擬的体験をする。
評価基準	授業態度・グループワークへの参加や積極性(発言回数)・課題レポート内容を40%，筆記試験40%，出席と課題提出20%
教科書	資料配布
参考書	冨岡詔子、小林正義編：作業療法全書（改訂第3班）第5巻「作業治療学2　精神障害」日本作業療法士協会、協同医書出版
実務経験に関する記述	精神科病院勤務約20年以上の臨床経験を持つ教員が，具体的な事例を提示し実践的な教育を行う．

授業科目名	作業療法治療学Ⅲ（発達）	（フリガナ） 担当教官名	金弦敬子（カナヅルケイコ）・幸福秀和（コウフクヒデカズ） 三宅孝史（ミヤケタカシ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	60 2	必修･選択の別	必修

科目概要	発達時期に疾病または外傷による末梢神経系あるいは中枢神経系に障害を受けた児・者の作業療法についての講義。疾病の症状、合併症、禁忌事項を学ぶ。作業療法の治療理論。疾患は、脳性まひ・筋ジストロフィー・二分脊椎・知的障害（ダウン症）・重症児・自閉症・ADHD・LD・等。人間発達学・小児科学・運動学・作業療法概論・作業療法評価学等の知識を踏まえて講義し、具体的な見通しを持ち作業療法に取り組めることを目標にしている。
到達目標	1. 発達障がいの特徴を踏まえて作業療法プログラムを立案・一部実施する。 2. 治療目的に沿った治療道具（玩具作り）ができる。

回数	授業内容	担当
1	Ⅰ．オリエンテーション	幸福秀和
2	子どもの発達と作業療法	幸福秀和
3	評価について	幸福秀和
4	治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ	幸福秀和
5	感覚統合機能に対するアプローチ（LD 等）	幸福秀和
6	姿勢と運動へのアプローチ（脳性マヒ等）	幸福秀和
7	知的障害に対するアプローチ（ダウン症等）	幸福秀和
8	筋ジストロフィーの作業療法（筋疾患等）	幸福秀和
9	二分脊椎の作業療法	幸福秀和
10	重症心身障害の作業療法	幸福秀和
11	その他の疾患	幸福秀和
12	自閉症スペクトラムについて（ADHD・LD・自閉症・アスペルガー等）	幸福秀和
13	事例を通して：ICF の図の作成（グループワーク）	幸福秀和
14	作成ものづくり（簡易手編み・簡単指装具等）	幸福秀和
15	作成ものづくり（簡易手編み・簡単指装具等）	幸福秀和
16	Ⅱ．疾患に特化した作業療法 肢体不自由児・者の作業療法　その①	三宅孝史
17	肢体不自由児・者の作業療法　その②	三宅孝史
18	肢体不自由児・者の作業療法　その③	三宅孝史
19	肢体不自由児・者の作業療法　その④	三宅孝史
20	重症心身障がい児・者の作業療法　その①	三宅孝史
21	重症心身障がい児・者の作業療法　その②	三宅孝史
22	難病疾患に関する作業療法　その①	三宅孝史
23	難病疾患に関する作業療法　その②	三宅孝史
24	Ⅲ．環境調整的介入 各種刺激（音・色・遊び等）の量、種類の考え方	金弦敬子
25	発達支援に関わる人の考え方・まちづくり	金弦敬子
26	多職種連携と作業療法士の役割	金弦敬子
27	小児リハビリテーションと支援制度	金弦敬子
28	その他の各種法制度、特殊支援学級	金弦敬子
29	保護者への子育て支援と地域活動	金弦敬子
30	発達障がい領域における作業療法士の役割	金弦敬子

アクティブラーニング	
評価基準	成績は定期試験（80%）、レポート（20%）等を総合して評価する
教科書	発達障害作業療法（作業療法ゴールドマスターテキスト）、メディカルビュー社
参考書	栗原まな著「小児のリハビリテーション」診断と治療社
実務経験に関する記述	国内外で 30 年以上発達障がい者の支援に関わり、大学教員として多くの実績を有する教員が理論と実践の両面から講義を展開する。

授業科目名	作業療法治療学Ⅳ（高次）	（フリガナ） 担当教官名	ナカ ダ ナ オ 仲 田 奈 生
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	高次脳機能障害の作業療法を理解し、その臨床思考過程について学ぶ。模擬事例を通し、各高次脳機能障害の症状に対する評価立案・ICF による分類・治療プログラムの立案までの一連の過程を経験する。
到達目標	・高次脳機能障害に対する作業療法の流れを理解し、説明できる。 ・模擬事例を通して、基本情報・脳画像より適切な評価を列挙できる。 ・模擬事例の評価情報を ICF でまとめ、問題点を整理することができる。 ・各症状に応じたプログラムを立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	高次脳機能障害の作業療法について、作業療法目的・流れを説明する。加えて、本科目の目的、内容、到達目標をオリエンテーションする。	仲田奈生
2~3	半側空間無視の模擬症例（基本情報・脳画像）を用いて評価計画の立案をグループで協議し発表する。	仲田奈生
4~5	半側空間無視の模擬症例を用いて評価情報を ICF でまとめ、グループにて利点・問題点を整理する。	仲田奈生
6~7	注意障害の模擬症例（基本情報・脳画像）を用いて評価計画の立案をグループで協議し発表する。	仲田奈生
8~9	注意障害の模擬症例を用いて評価情報を ICF でまとめ、グループにて利点・問題点を整理する。	仲田奈生
10~11	遂行機能障害の模擬症例（基本情報・脳画像）を用いて評価計画の立案をグループで協議し発表する。	仲田奈生
12~13	遂行機能障害の模擬症例を用いて評価情報を ICF でまとめ、グループにて利点・問題点を整理する。	仲田奈生
14~15	各高次脳機能障害に応じた治療・援助を文献検索し、抄録にまとめグループ内で発表する。	仲田奈生

アクティブラーニング	・担当教員の講義内容をふまえ、学生は教員から提示された課題についてグループ毎にディスカッションを行う。担当教員は各グループを周り、指導・助言を行いながら課題解決を援助する。
評価基準	筆記試験 70%　発表 20%　出席・態度 10%
教科書	鎌倉矩子・本多留美：高次脳機能障害の作業療法　第一版　三輪書店
参考書	・渕雅子：作業療法全書　改訂第 3 版　第 8 巻　作業療法治療学 5　高次脳機能障害協同医書出版
実務経験に関する記述	総合病院において、9 年間専任作業療法士として従事し、回復期病棟、医療療養型病棟、外来における高次脳機能障害の治療に関わった教員が、障害や症状に応じた機能回復訓練、代償方法、応用動作訓練について、具体的な事例を提示し、実践教育を行う。

授業科目名	作業療法治療学Ⅴ（高齢者）	（フリガナ） 担当教官名	カナ ヅル ケイ コ 金 弦 敬 子		
開講学期	前期				
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修
科目概要	高齢期の身体的・精神的特徴を理解し、各種評価と作業療法治療を学修する。 高齢期を支える家族・地域・法制度の支点から支援を考える力を養う。				
到達目標	1. 高齢期における身体的・精神的特徴を理解し、説明できるようになる。 2. 高齢期の評価、作業療法プログラムを立案できるようになる。				

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション　本科目の位置づけと　日本の高齢化と社会動向	金弦敬子
2	高齢期社会と高齢期の課題をディスカッションし、問題点を抽出する	金弦敬子
3	高齢者の生理的・身体的特徴の作業療法評価で必要な知識について講義を受ける（障害高齢者の日常生活自立度判定基準、PGC モラールスケール、基本チェックリスト、老研式活動能力指標、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、HUI、CDR、パラチェック老人行動評定尺度、SF-36 など）	金弦敬子
4	高齢者の心理・精神的特徴のメカニズムについて 作業療法治療で必要な知識を整理する	金弦敬子
5	高齢期に多い疾患について講義を受け理解する 視野狭窄や白内障、円背について一部体験する	金弦敬子
6	認知症について作業療法評価を一部体験する	金弦敬子
7	認知症の種類別作業療法プログラムをグループでディスカッションし立案する	金弦敬子
8	認知症の種類別作業療法プログラムをグループでディスカッションし立案する	金弦敬子
9	認知症の作業療法プログラムをクラスに対しグループごとに発表しディスカッションする	金弦敬子
10	高齢期の作業療法遂行上のリスク管理について講義を受ける	金弦敬子
11	高齢者のシーティングと福祉用具について講義を受ける	金弦敬子
12	高齢期を支える家族の理解と連携について講義を受け 家族への介入をディスカッションする	金弦敬子
13	高齢期を支える地域の理解と多職種連携について講義を受け 地域や多職種連携についてディスカッションする	金弦敬子
14	支援制度と関連機関、新オレンジプランの講義を受け作業療法としてできることをグループディスカッションする	金弦敬子
15	高齢期に携わる作業療法士の役割	金弦敬子

アクティブラーニング	高齢期の身体・精神的特徴を一部体験する。 高齢期作業療法プログラムをグループディスカッションしながら立案し、クラスで発表をする。担当教員は学生が主体的に発言しやすいよう進行を統括する。
評価基準	筆記試験 60% グループディスカッションや発表時の発言や協調性 20% 出席状況と授業態度 20%
教科書	資料を配布する
参考書	認知症をもつ人への作業療法アプローチ；支点プロセス・理論、メジカルビュー社 高齢期領域の作業療法；プログラム立案のポイント . 中央法規出版
実務経験に関する記述	「回復期病棟」、「訪問リハビリテーション」、「介護者の集い」で実務経験のある教員が授業を展開する

授業科目名	応用作業分析学	（フリガナ） 担当教官名	OT 学科全教員			
開講学期	通年					
対象学科 及び学年	作業療法学科　3 年	時間数 単位数	30 2	必修･選択 の別	必修	
科目概要	作業療法士がその専門性を発揮できる対象は身体障害・精神障害・老年期障害の各障害者だけでなく、疾病が予測される者、また健康な者まで非常に幅広く、捉え方も様々である。本授業では各領域の作業療法に必要な思考プロセスをペーパーペイシェントを通じて演習形式で学ぶ。尚、本科目では「PBL チュートリアル」を導入し、各グループごとに教員（チューター）が関わりながら課題に立脚した学生の能動的な学びを支援する。					
到達目標	・身体障害・精神障害・（発達障害）・老年期障害の各障害の作業療法の思考プロセスを理解する。 ・各段階で必要な評価や治療、マネジメントの方法などを列挙できる。 ・将来、医療チームの一員として、集団の中での協調性と積極性ならびに責任を発揮できる態度と技量を身につける。 ・自己ならびに他の学生、事例、チューターを適正に評価し、適切なフィードバックに基づいて改善したり資質向上を促す態度と技量を身につける。					

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション（前期の流れの説明・グループ設定）	全教員
2~3	第一ユニット（事例検討）　身障障害（整形疾患）	全教員
4	第一ユニット（総合討論）	全教員
5~7	第二ユニット（事例検討）　老年期障害	全教員
8	第二ユニット（総合討論）	全教員
9~11	第三ユニット（事例検討）　精神障害（統合失調症）	全教員
12	第三ユニット（総合討論）	全教員
13~15	第四ユニット（事例検討）　身障障害（脳血管疾患）	全教員
16	第三ユニット（総合討論）	全教員

アクティブラーニング	本科目では「PBL チュートリアル」の形態をとり、 1）学生主体の能動的自己学修 2）少人数によるグループダイナミックスを活用した学修形態により、 3）問題に準拠した学修、 4）統合的・学際的な学修を押し進める。
評価基準	総合討論における発表内容　50% 出席日数・グループ活動における態度・行動　50%
教科書	適宜提示する
参考書	授業の進行とともに適宜紹介する
実務経験に関する記述	身体障害領域･精神障害領域で 10 年～ 20 年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、身体障害領域、精神障害領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。

授業科目名	職業関連活動	（フリガナ） 担当教官名	カナ ヅル ケイ コ 金 弦 敬 子
開講学期	後期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	1．心や体に障がいをもった方、生まれながらにして障がいをもつ方にとって、就労の意味と役割を考え、支援する力を養う。 2．作業療法の発祥に遡り、作業療法士として就労支援の意義を考え、臨床多分野でも就労支援ができる視点を養う。 3．就労支援における作業療法士の役割が多様化される時代のニーズに即した柔軟な考えができるよう視野を広げる。
到達目標	1．何のために働くのか自分の考えを明確にすることができる。 2．他者の就労に対する価値観を共有することができる。 3．就労支援に必要な作業療法評価に関する知識・支援技術を身に付ける。 4．障害者総合支援法における福祉サービスの種類と作業療法士の役割を理解する。

回数	授業内容	担当
1	Ⅰ．職業関連活動の概説　1．オリエンテーション 【演習】働く目的と意味を考え求人票を外観する。 【講義】他の科目と職業関連活動科目の位置づけ、概要、目的を担当教員が講義をする。障がい児・者の日本の歴史、世界の歴史、作業療法発祥と就労支援の歴史について講義をする。	金弦敬子
2	2．職業関連活動の概念 【講義】人が働く意味について、ディスカッションを通して学生個々の考えを明確化し、クラス内で共有し、様々な価値観を共有する。	金弦敬子
3	3．人の職業的発達 【講義】Ericsson の発達段階､Maslow の欲求階層に基づき､人の職業的発達を Super のキャリア発達の視点から人の職業的発達を講義する。	金弦敬子
4	Ⅱ．障がい者と職業 1．現状と課題 【講義】障がい者の就労の現状と課題を理解する。	金弦敬子
5	2．就労支援における各種関連機関と関連職種 【講義】機関：ハローワーク、特別支援学校、地域障害者職業センター、障害者職業能力開発学校等　専門職：ジョブコーチ、社会福祉士、公認心理士等の役割について講義を受ける。	金弦敬子
6	3．就労支援に関わる関連法規 【講義】障害者自立支援法、障害者総合支援法、障害者雇用率制度、職業能力開発促進法について講義をする。特に、障害者総合支援法における福祉サービスの種類と特徴について講義をする。リ・ワーク、職場適応訓練の内容について講義する。	金弦敬子
7	4．就労支援で用いられる評価① 【講義・演習】GATB、レディネステストの講義を受け、実際に演習する。	金弦敬子
8	5．就労支援で用いられる評価② 【講義･演習】VPI 職業興味検査、タワー法、MODAPTS 法、場面設定法等の講義を受け、特徴を理解する。一部演習し、検査の解釈と支援介入立案の焦点化を体験する。	金弦敬子
9~11	Ⅱ．就労支援の実際 1．現場実習 障害者就労支援の現場に見学 / 評価の一部を担当教官の指示の下実施する。LASMI を用いてコミュニケーションから得られる評価を体験する。評価結果から対象者に必要な要因の特定を考察する。作業療法士の役割をクラスでディスカッションする。	金弦敬子
12	2．分野別就労支援の特徴 精神分野における就労支援、障がい特徴を理解する。	金弦敬子
13	3．分野別就労支援の特徴 高次脳機能障がい / 身体障がい分野における就労支援、障がい特徴を理解する。	金弦敬子
14	4．分野別就労支援の特徴 発達分野における就労支援、障がい特徴を理解する。	金弦敬子
15	Ⅲ．事業所の運営、地域の課題、産業の課題について講義を受ける。 作業療法士の職域と役割についてディスカッションをする	金弦敬子
16	筆記試験	金弦敬子

アクティブラーニング	1．就労支援で実際に用いられる評価を体験し、自分の特性を見つめなおす機会がある。 2．就労支援事業所に出かけ、観察評価、面接評価による作業療法評価を一部体験する。体験した内容に基づき、対象者にとって必要な就労支援の問題点抽出と作業療法計画の立案を一部体験する。
評価基準	筆記試験 80%、出席状況とレポート 20%
教科書	適宜資料配布
参考書	作業療法改訂第 6 版．上巻．H.Lhopkins，H.D.Smith 編著．鎌倉矩子他訳 作業療法学全書改訂第三版．第 12 巻．職業関連活動．平賀昭信ら著．協同医書出版 作業療法マニュアル 58 高次脳機能障害のある人の生活・就労支援．日本作業療法士協会．2015
実務経験に関する記述	障害者就労継続支援 B 型事業所で生活相談を実施する担当教員が授業を展開する。

授業科目名	地域インクルーシブ論	（フリガナ） 担当教官名	ヤマ モト マリコ ・ ウチ ダ フミカ 山 本 真理子 ・ 内 田 芙美佳
開講学期	前期		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	15 1	必修･選択の別	必修

科目概要	地域共生社会における作業療法士の役割や地域の課題についての知識を深める。
到達目標	・地域包括ケアシステムについて説明できる。 ・作業療法の専門性が地域高齢者の健康増進に対してどのように寄与できるのか考え、地域の課題発見・解決に向けた取組を立案することができる。

回数	授業内容	担当
1	地域包括ケアシステムの定義および概要について	山本
2	奥出雲町地域診断	山本・内田
3	奥出雲町課題ヒアリング	山本・内田
4	他地域との比較検討	山本・内田
5	課題解決に向けた方略検討	山本・内田
6	課題解決に向けた方略検討	山本・内田
7	課題解決に向けた方略検討	山本・内田
8	発表、意見交換会	山本・内田

アクティブラーニング	地域包括ケアシステムの概念を基に、奥出雲町高齢者の健康増進に寄与するための取り組みについてグループワーク（PBL）を行い、その結果の発表を行う。
評価基準	プレゼンテーション 20%、出席日数・授業態度 80%
教科書	・適宜プリント配布する。
参考書	・CBR に根差したリハビリテーション　マルコムピート　田口順子　明石書店 ・持続可能な地域の作り方　未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン　筧裕介　英治出版
実務経験に関する記述	急性期、亜急性期を担う病院で 10 年半の臨床経験と地域自立支援型ケア会議の助言者として地域高齢者の自立支援に携わる教員が地域課題の発見・解決にむけた実践的教育を行う。

授業科目名	臨床実習Ⅱ	（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員		
開講学期	後期				
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	135 3	必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅰに引き続き、作業療法士の業務について理解を深める。 臨床実習Ⅰの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な検査・測定方法を選択し正確に実施する能力、および検査・測定の結果を専門用語を用いて正確に記録する能力を育成することを目的とする。また､対象者とのラポールを築くため､目的に沿った医療面接の技術を育成する。				
到達目標	臨床実習Ⅰの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目を列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施できる。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者あるいは家族に対して検査・測定に関するオリエンテーションが適切に実施できる。 ・検査・測定結果を専門用語を用いて正確に記録することができる。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、適切な医療面接が実施できる。				

授業内容	担当
臨床実習 時間：120時間（3週間：15日間） 場所：医療施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者に合わせた必要な検査・測定項目が列挙でき、一般的な方法を用いて正確に実施する。また、検査・測定等に関するオリエンテーションを実施する。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1週間の施設実習時間は、40時間とし、家庭学習時間を含め45時間以内とする。	臨床実習指導者

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総合評価は学院教員にて実施する。 臨床実習指導者による評価結果40%　臨床実習後の提出課題内容30%　実習報告会の内容30%
教科書	島根リハビリテーション学院　作業療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	臨床実習Ⅲ	（フリガナ） 担当教官名	各臨床実習施設指導者・全専任教員		
開講学期	後期				
対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	180 4	必修･選択の別	必修
科目概要	本科目は、臨床実習施設において、実際の診療に参加しながら実践を通じて作業療法業務を学ぶ実習科目であり、臨床実習Ⅱに引き続き、作業療法士の業務について理解を深める。 臨床実習Ⅰ～Ⅱの目的に加え、臨床実習指導者の指導・助言のもとに、得られた情報収集内容や検査・測定結果間の関連性を整理し統合・解釈し問題点を整理する能力を育成する。加えて、統合・解釈の思考過程を文章化する能力を育成することを目的とする。				
到達目標	臨床実習Ⅰ～Ⅱのの到達度に加え以下の項目を到達度とする。 ・臨床実習指導者の指導・助言のもと、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を整理し統合・解釈できる。 ・ICIDH あるいは ICF にもとづき問題点を整理できる。 ・統合・解釈の思考課程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。				

授業内容	担当
臨床実習 時間：160 時間（4 週間：20 日間） 場所：医療施設もしくは医療外施設 内容：社会人、医療従事者として相応しい意識や態度について指導を受け取組む。 臨床実習指導者の指導・助言のもと、対象者の課題解決に向け、得られた情報収集内容や検査・測定の結果間の関連性を統合し解釈する。問題点を整理し、統合・解釈の思考課程を経験症例カルテや経験症例レポートにて文章化できる。 詳細な日程は、臨床実習要綱を参照。 1 週間の施設実習時間は、40 時間とし、家庭学習時間を含め 45 時間以内とする。	臨床実習指導者

アクティブラーニング	各臨床実習施設において、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行う。
評価基準	総合評価は学院教員にて実施する。 臨床実習指導者による評価結果 40%　臨床実習後の提出課題内容 30%　実習報告会の内容 30%
教科書	島根リハビリテーション学院　作業療法学科　臨床実習要綱
参考書	
実務経験に関する記述	臨床実習指導者は、5 年以上実務に従事した者であり、かつ厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会あるいは厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会を受講した者が担う。

授業科目名	総合演習Ⅲ	（フリガナ） 担当教官名	ヤマモトマリコ　カナヅル　ケイコ　ナカダ　ナオ 山本真理子・金弦　敬子・仲田　奈生 アオキリュウタロウ　ツダコウタロウ 青木竜太朗・津田宏太郎
開講学期	通年		

対象学科及び学年	作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修･選択の別	必修

科目概要	本科目は、国家試験にむけた学習を進める。 専門基礎分野の復習と暗記、専門分野の知識の定着、問題の読解と方略を学ぶことを目標とする。
到達目標	専門基礎分野では、各分野の到達度を把握し到達度範囲の全てを暗記することができる。 専門分野では、まとめる、理解し説明できる、読解するといった学習方略を身に付けることができる。

回数	授業内容	担当
1	解剖学（骨関節靭帯）	作業療法学科全教員
2	解剖学（筋起始・停止）	作業療法学科全教員
3	解剖学（脳解剖）、生理学	作業療法学科全教員
4	運動学	作業療法学科全教員
5	精神医学	作業療法学科全教員
6	臨床心理学	作業療法学科全教員
7~8	脳血管疾患	作業療法学科全教員
9~10	神経筋疾患	作業療法学科全教員
11~13	整形外科疾患	作業療法学科全教員
14~15	評価学	作業療法学科全教員

アクティブラーニング	e-larning 学習と講義を用いて、専門基礎分野と専門分野の理解と暗記を図る。 1.　科目担当教員から事前に分野の講義動画の提示がある。学生は提示された講義動画を聴講し、理解と暗記を図る。その後、学生は分野の問題を解く。 2.　分からなかった問題については、調べ学習を行ったり、学生間で話し合い、理解を深める。加えて、教員の指導の基、さらなる理解を深める。 3.　最後に難易度の異なる問題を解き、分からなかった問題については、上記と同様な方法を用いて理解を深める。
評価基準	ペーパー試験 100％ ※年間 7 回（日程については別途提示する）ある試験のうち 1 回以上、総得点の 4.5 割を超える回があること。
教科書	適時資料を配布する。
参考書	特になし。
実務経験に関する記述	身体障害領域・精神障害領域で 10 年～ 20 年の経験を有する教員が各項目ごとに担当し、身体障害領域、精神障害領域の評価の知識と技術について、学生個別の課題に応じた細かな指導を実践する。

授業科目名	コミュニティ・ベースド・リハビリテーション（CBR）	（フリガナ） 担当教官名	ウチ ダ サキ コ ヤマ モト マリコ 内 田 咲 子・山 本 真理子
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修・選択の別	自由選択

科目概要	近年、人間の多様性の尊重等の強化がされる中、すべての虚弱な方々が自由なコミュニティや社会に効果的に参加することを可能とする目的で、リハビリテーションアプローチの一つである Community-Based Rehabilitation : CBR が用いられている。本科目ではフィールドワークを通じて地域の課題を分析し、理学療法・作業療法の視点を加えた解決のための策を見つけ、地域住民に対してプレゼンテーションを行う。 ※本科目は、選択科目となっています。 ※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。
到達目標	・CBR の概念を理解する。 ・地域住民や他職種との協業の意義や必要性を知る。 ・地域のインフォーマルな集団において、問題発見・解決を行う。 ・プロジェクトマネジメントを学び、課題を期間内に遂行できる能力を身につける。

回数	授業内容	担当
1	CBR の概念について説明、実践例などを調べる	山本
2	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる	山本
3	地域を知る；横田地区の立地、人口などを調べる	山本
4	地域を知る；地域の人に聞く	山本
5	現状調査；フィールドワーク	山本
6	現状調査；フィールドワーク	山本
7	現状調査；フィールドワーク	山本
8	現状調査；フィールドワーク	山本
9	PT・OT 視点での改善点作成	山本
10	PT・OT 視点での改善点作成	山本
11	発表資料準備	内田・山本
12	発表資料準備	内田・山本
13	発表資料準備	内田・山本
14	地域での発表、意見交換会	内田・山本
15	地域での発表、意見交換会	内田・山本

アクティブラーニング	地域についてフィールドワークで得た情報から導き出した問題点などから、グループワークを行い、課題解決策を作成し、発表する。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況）、出席及び課題から総合評価　100％
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介
実務経験に関する記述	総合病院で専任作業療法士として従事し、その後、地域の拠点づくりに関わった経験をもつ教員が、地域の自主組織を連携し、住民の健康維持に向けた運動や作業の取り組みを支援する方法について、体験談や事例を踏まえて実践的教育を行う。

授業科目名	医療関連ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス（演習）	（フリガナ） 担当教官名	オノ ヒロアキ・ヤマモト マリコ 尾野寛明・山本真理子
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　3年 作業療法学科　3年	時間数 単位数	30 1	必修・選択の別	自由選択

科目概要	ビジネスを通じて地域課題解決を図る動きとして「ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス（SB・CB）」が注目を浴びている。集落の小さなビジネスが地域の健康づくりにつながることも多く、これからの地域まるごとリハビリテーションを考えるうえでも重要なものとなりつつある。 本科目では、コミュニティビジネスを多数創出している奥出雲町三沢地区を題材に、現場見学や若手関係者と対話を重ねるプログラムを実施する。三沢の元気さの秘訣を探り、演習の範囲で、自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える。 大多数の学生は、まずは専門職として医療機関や支援機関で働くことになる。一方で将来的に、地域の困りごとを解決しながら人々の健康づくりにつなげていく「コーディネーター」のような働き方や、地域で独立・起業するような働き方を思い描いている学生も増えている。 そのためにも、専門職の技術と地域課題を掛け合わせる感性を持ち合わせてほしいと願っている。本プログラムを通じて、新たな領域を開拓する意識の養成を目指す。 ※本科目は、選択科目となっています。 ※本科目は、2年次および3年次のどちらの学年でも履修可能です。
到達目標	・SB、CBの基本的概念を理解し、ビジネスを通じて地域課題解決に取り組む意義を理解する ・複雑かつ多岐にわたる地域課題を俯瞰して今取り組むべき課題を抽出できる「課題設定能力」を身につける ・地域まるごとリハビリテーションを追及するために、地域の様々な関係者と連携できる「対話力」「点と線をつなぐ力」を身につける ・無理に企画を作るのではなく、演習の範囲でできそうなことは何かを模索する。健康増進、買い物支援、農産物加工、ミニ商店の運営、移住・創業支援、空き店舗改修など地域の様々な取り組みに専門技術を掛け合わせて何が生まれるか試行錯誤できる感性を身につける

回数	授業内容	担当
1	ガイダンス：医療・福祉職がなぜ、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを学ぶのか。	尾野寛明
2	SB、CBの基本的概念：普通のビジネスと何が違うのかを理解する。	尾野寛明
3	SB、CBが生み出すもの：生きがい創出、健康増進など、ビジネスを通じた課題解決の可能性を学ぶ。	尾野寛明
4	「小さな拠点」づくりとコミュニティビジネス：中山間地域の生活機能維持に向けたCBの役割を理解する。	尾野寛明
5	医療福祉とSB·CB：地域医療・地域福祉領域の課題とSB·CBの最先端の事例を学ぶ。	尾野寛明
6	現地訪問（1）：町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする	尾野寛明
7	現地訪問（1）：町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする	尾野寛明
8	現地訪問（1）：町内の「小さな拠点づくり」の現場やコミュニティビジネスの取り組みを見学し、若手とアイデア会議をする	尾野寛明
9	現地訪問（2）：地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える	尾野·山本
10	現地訪問（2）：地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える	尾野·山本
11	現地訪問（2）：地域課題と自分たちの専門性を掛け合わせてできそうな小さな企画を考える	尾野・山本
12	現地訪問（3）：地区の若手たちと協力して小さな企画を実施してみる	尾野・山本
13	現地訪問（3）：地区の若手たちと協力して小さな企画を実施してみる	尾野・山本
14	現地訪問（3）：地域の関係者向けの報告会	尾野寛明
15	現地訪問（3）：地域の関係者向けの報告会	尾野寛明

アクティブラーニング	教員と学生とのやり取りが簡単にできるWEBサービス「Google Classroom」を導入し、質問や感想の書き込み、簡単なレポートの提出、フィードバックとその閲覧が円滑にできるよう活用する。
評価基準	地域の関係者向けの報告会プレゼンで評価
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	・尾野寛明·中村香菜子·大美光代『わたしをつくるまちづくり～地域をマジメに遊ぶ実践者たち』（コールサック社、2021年） ・竹端寛·尾野寛明（編著）『無理しない地域づくりの学校　私からはじまるコミュニティワーク』（ミネルヴァ書房、2017年） ・松永桂子・尾野寛明（編著）『ローカルに生きるソーシャルに働く　新しい仕事を創る若者たち』（農文協、シリーズ田園回帰5、2016年）
実務経験に関する記述	地域づくり担い手育成塾の運営や、住民自治組織の運営支援、総合計画策定支援、その他組織マネジメント全般を担当し、地方創生、地域人材育成、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス支援に関する実務に従事している教員が、経験した事例や他職種・他業種連携能力の重要性を伝え、奥出雲町をフィールドとした地域の課題発見・課題解決に取組む実践的教育を行う。